

ラーチャブルック ราชพฤกษ์

※「ラーチャブルック」はタイを代表する花、ゴールデンシャワーをタイ語で表現したものです。

校長 谷口 幸一郎

時間をたっぷり使って

残念ながら学校開業までの期間がまた延びてしまいました。7月には開業できると信じながら準備を進めてきましたが、とても残念です。このように自宅でのオンライン授業が長く続くと、きっと子供たちは家での時間をもてあましていないのでしょうか。一方でこの時間を使って**じっくりと取り組める何か**を見付けことができれば、きっと休業期間も少し楽しく過ごせるかもしれません。

例えば、読書特に大作を読んでみるとか前に読んだ本を読み返してみるとか、大きな紙に絵を描いてみるとか、描いた絵に物語をつけてみるとか、楽器の習得を試みるとか、ソフトを使って作曲してみるとか、習字を書いてみるなどいいかもしれません。学習に関係あるものだけではなく、一見無駄に思えることにも挑戦させて、**とことん探究**させてみることもできると思います。

「先生、卵を砂に入れてみると、ゆで卵ができるんだよ。」大分暑くなってきた6月末の頃、国語の授業前に5年生の女子が言ってきました。ドバイ日本人学校での出来事です。「いや、それは無理でしょう。」と私は即座に答えたのですが、彼女たちは実験してみようとさっさと外に出て行き、準備していた卵を校庭の隅に埋めました。夏は45℃(今年、UAEは気温51.8℃を記録)も超えることもあるドバイだったので、ひよっとしたらという思いもありましたが、**結果、ゆで卵はできませんでした。**当時、5年生の学級は女子4人の1学級でしたが、彼女たちは**日頃から多くの疑問をもっていた**ようです。しかし、外国で暮らしているため、外出はさせてもらっていませんでした。いろいろな実験を試みたかっただけです。車のボンネットで目玉焼きとか、天日を使って塩水から塩を取り出そうとか、次から次へと疑問が出てきます。彼女たちももう40歳、保護者の方々と同じくらいの年齢ではないのでしょうか。皆さんは、今でも子供の頃の疑問をもち続けていますか？

私たち大人は様々なことに対して**疑いの目をもってみることが少なくなっています。**しかし、**子供の頃はたくさんの疑問があったはず**です。その素直な疑問の答えを、あまり外出ができない今の時間を使って考えてみるのもいいかもしれません。また、答えが出なくてもいい、疑問をもつこと自体に意義があることだと思えます。**子供の頃の疑問をもち続け、その答えを導き出したいという気持ちを大人にな**

教室配置が変わりました。

昨年度までは、1号棟に1, 2, 3年生、4, 5号棟に4, 5, 6年生の教室がありましたが、今年度は配置が少し変わりました。これまで使っていなかった3号棟を使い、ここに4年生と3, 4年の教員の第2職員室、加えて図書館を移動させました。また、音楽室の位置も若干変わり、さらに、旧図書館は音楽室になりました。



っても持ち続けること，それが科学の伸展につながるかもしれません。（4年生の授業ではイメージマップを使って子供たちに疑問をもたせる活動を行っています。）

子供たちに疑問を持たせる前に，私たち自身が様々なことに疑問を持つことです。そのヒントになるのが自由研究の過去のテーマです。ネットで検索してみると，テーマから実験方法，答えまでが掲載されています。その情報をもとに，子供が疑問に気付くような何気ない問いかけをしてみる。あるいは「チョコちゃんに叱られる」風に「**ねえねえ，OO，どうして～**」と聞いてみるのもいいかもしれません。

学校が再開した時に，調べたことをもって校長室へ行かせてください。楽しみにしています。

「イグノーベル賞」

ノーベル賞についてはよく知られていることですが，一方で1991年にマーク・エイブラハムズが創設した賞に「イグノーベル賞」があります。面白いが埋もれた研究，並外れた研究，想像力が高い研究など称えるためのものです。当初，この賞により真面目な研究が軽視されるという声もありましたが，今は多くの化学者たちから指示され，毎年受賞者が出ています。日本人は1992年に医学賞「足の匂いの原因となる化学物質の特定」で最初に受賞し，2007年から2020年までの14年間は連続で受賞しています。子供たちの何気ない調べ学習が将来，イグノーベルいやノーベル賞までつながるかもしれません。